

## 花粉症の薬の飲み間違いや子どもの誤飲に注意しましょう！

2023年は例年より花粉の飛散量が多くなると予想されています。暖かくなると花粉が飛び始め、アレルギー性鼻炎や結膜炎といった花粉症の症状に、抗アレルギー薬などを使用する機会が増加します。日本中毒情報センター中毒110番では、3月頃に抗アレルギー薬に関する問い合わせが多くなります。

抗アレルギー薬の飲み間違い・誤飲事故（2017～2021年、n=3508）



小児の誤飲事故では、以下のような問い合わせがあります。

- 「両親が薬を服用後、机の上に置いていた薬のシートを子どもが取り、錠剤をかじった。」
- 「子どもがシロップ薬の味が好きで、テーブルに置いてあった薬のボトルを取り、たくさん飲んだ。」

また、服用時の事故には、以下のような問い合わせがあります。

- 「用法・用量をよく確認せずに、1日1回の薬を1日2回飲んだ。」
- 「下の子どもに薬を飲ませる際に、誤って上の子どもの薬を飲ませた。」



### ●事故防止のために以下の点に注意しましょう。

- ・ 小さい子どもがいる家庭では、子どもの手の届かない場所に薬を保管しましょう。また、服用後はすぐに保管場所に片付けましょう。
- ・ 薬を飲む前に、本人の薬かどうか、用法・用量をよく確認しましょう。特に子どもに薬を飲ませる際は、親やきょうだいの薬と間違えないようにしましょう。

事故が発生し、受診すべきか判断に迷った場合は中毒110番にご相談ください。

公益財団法人日本中毒情報センター 中毒110番電話サービス（一般向け）

- 大阪中毒110番（365日 24時間対応） 072-727-2499
- つくば中毒110番（365日 9時～21時対応） 029-852-9999

本資料を引用又は使用して資料作成・報道等を企図される場合は、必ず事前にその内容について日本中毒情報センター（本部事務局 電話：029-856-3566）の承諾を得、「公益財団法人 日本中毒情報センターの調査による」旨明記して下さい。